

URPMI FAQ

- [URPMI FAQ](#)
- [Mandriva Linux](#)
 - [URPMI に任意のリポジトリを追加するには?](#)
 - [日本国内の高速ミラーサーバーを利用してアップデートするには?](#)
 - [コマンドラインからパッケージ管理するには? \(基本コマンド\)](#)
 - [コマンドラインからパッケージ管理するには? \(詳細オプション\)](#)
 - [urpmi 詳細オプション](#)
 - [urpme 詳細オプション](#)
 - [urpmq 詳細オプション](#)
 - [パッケージ追加時に、インストールCDを毎回参照しないようにしたい。](#)
 - [サードパーティのRPMパッケージは利用できますか。](#)
 - [2ch ブラウザー「おちゅ～しゃ」のインストールができません。](#)
 - [メタパッケージ \(Task-Oriented パッケージ\) の利用について \(2006 Official\)](#)

Mandriva Linux

URPMI に任意のリポジトリを追加するには?

インストールCDを用いてインストールを行った直後は、参照可能なリポジトリはCDメディアのみです。外部のリポジトリを追加しないことには、パッケージ管理ツール URPMI は本来の機能を発揮できません。Fedora/RedHat Linux ではインストール直後には初期設定がすすんでいて、直ちに利用可能となっているのに対して、Mandriva Linux の場合はこの点が異なります。

リポジトリの追加は [デスクトップ] > [アプリケーション] > [システム] > [設定] > [RPMの管理] > [RPMのメディアを管理] から、グラフィカルな設定が可能です。 [Easy urpmi config](#) というWEBブラウザから設定コマンドを自動生成できる便利なツールもあります。

[Easy URPMI 手順と設定例] (コマンドラインからの設定)

1. バージョン名や使用しているシステムを選択
2. 追加したいソース (contrib / main / updates など) とそのミラーを選択
3. ルートユーザーになって、作成された次のコマンド (一例) を実行

```
# urpmi.addmedia contrib http://ftp.riken.jp/Linux/mandrake/official/2005/i586/  
media/contrib with media_info/hdlist.cz
```

- [Urpm](#)
- [URPMI resources page](#)
- [URPMI and RPM Tutorial](#)
- [URPMI と RPM のチュートリアル\(URPMI and RPM Tutorial の日本語訳\)](#)

日本国内の高速ミラーサーバーを利用してアップデートするには?

グラフィカル・デスクトップでは、[RPMのメディアを管理] からまず設定を行います。

ターミナルからコマンドを実行して設定することもできます。その場合は、次のコマンドを実行します。その他のミラーサーバーを利用したいときも、この書式に習って設定が行えます。

[奈良先端科学技術大学院大学ミラーを設定]

```
# urpmi.addmedia main http://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Mandrivalinux/official/2007.1/i586/media/main

# urpmi.addmedia contrib http://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Mandrivalinux/official/2007.1/i586/media/contrib

# urpmi.addmedia updates http://ftp.nara.wide.ad.jp/pub/Linux/Mandrivalinux/official/updates/2007.1/RPMS
```

- 注意：相対パス（例：with ../base/hdlist.cz）の入力は省略できます。正規表現は、次の例（KDDI研究所やRIKENミラー）になります。

```
# urpmi.addmedia contrib http://ftp.riken.jp/Linux/mandrake/official/2007.1/i586/media/contrib with media_info/hdlist.cz

# urpmi.addmedia updates ftp://ftp.kddilabs.co.jp/Linux/distributions/Mandrake/official/updates/2007.1/RPMS with ../base/hdlist.cz
```

以上で初期設定は完了です。これで urpmi コマンドを用いてアップデートが実行できます。この設定ファイルは、[etc/urpmi/urpmi.cfg]に作成されています。

コマンドラインからパッケージ管理するには？ (基本コマンド)

Mandrakelinux ではパッケージ管理に Red Hat Package Manager(RPM) が採用されています。そのため、コマンドの使用方法は他の Red Hat 系ディストリビューションと同じです。[Red Hat Linux 9: Red Hat Linux カスタマイズガイド の RPMによるパッケージ管理](#) や [RPMの使用法](#) で分かりやすく解説されています。(RPM 関連 も参照のこと)

ただし、パッケージのインストールや削除の際、他のパッケージに「依存する」ときは、この例のようにエラーメッセージが出て警告します。

```
Preparing... ##### [100%]
error: Failed dependencies:
    bar.so.2 is needed by foo-1.0-1
```

Mandriva Linux では、この「依存性」解決のために、"urpm*" というコマンドが考案されました。このコマンドは Mandriva Linux 独自のもので、Red Hat Linux や Fedora Linux の場合の APT や YUM と似た機能を備えています。基本的なコマンドは、次のとおりです。

コマンド	解説
# urpmi ””パッケージ名””	新しいパッケージをインストールする
# urpme ””パッケージ名””	パッケージを削除する
# urpmi.addmedia ””名前”” ””url””	新しいメディアを追加する
# urpmi.removemedias ””名前””	メディアを削除する
# urpmi.update ””名前””	パッケージをアップデートする
# urpmi.update -a	システムのデータベースを最新のものへ更新する
# urpmi --update --auto-select	すべてのパッケージをアップデートする
\$ urpmq -i ファイル名	ファイル名からパッケージ情報を検索する

詳しくは [Package Management through the Command Line](#) という英語ページを参照してください。

- [関連公式ページ] [Mandrake RPM HOWTO](#)

コマンドラインからパッケージ管理するには？ (詳細オプション)

urpmi 詳細オプション

使い方:

- help - このヘルプを表示
- update - 更新メディアのみを使う
- media - 指定したメディアのみを使う(カンマで区切る)
- searchmedia - 指定したメディアのみを要求した(または更新された)パッケージの 検索に使う
- excludemedia - 指定したメディアは使わない(カンマで区切る)
- sortmedia - カンマ区切りで指定したメディアごとにソートする
- synthesis - urpmiのデータベースではなく指定したsynthesisを使う
- auto - 複数の選択肢から自動的にパッケージを選択
- auto-select - 自動的にパッケージを選択してシステムを更新
- no-uninstall - パッケージを削除する必要があるときは自動的にインストールを中 止
- keep - 既存のパッケージを維持し、削除要求は拒否する
- split-level - 一定数以上のパッケージがインストールまたは更新される
ときは分割して行う。デフォルトは 20
- split-length - 分割する最低パッケージ数。デフォルトは 1
- fuzzy - ファジー検索(-yと同じ)
- src - ソースパッケージを指定(-s と同じ)
- install-src - ソースのみをインストール(バイナリなし)
- clean - キャッシュからRPMを削除
- noclean - RPMをキャッシュに残す
- force - 足りないパッケージがあっても強制的に実行する
- allow-nodeps - 依存関係に問題が発生した時に、自動的に終了せずに
[--nodeps]でインストールするかどうか質問する
- allow-force - 依存関係に問題が発生した時に、自動的に終了せずに
[--force]でインストールするかどうか質問する
- parallel - urpmiをエイリアスの複数のマシンに使う
- root - RPMのインストールに他のルートを使う
- use-distrib - ディストリビューションのツリーからurpmiをオンザフライで
設定。chrootを '--root' オプション付きで(アン)インストール
する際に使用。
- wget - リモートファイルの取得にwgetを使う
- curl - リモートファイルの取得にcurlを使う
- limit-rate - ダウンロード速度を制限
- resume - 不完全なファイルのダウンロードを再開する
([--no-resume]で無効化、デフォルトで無効)
- proxy - 指定したHTTPプロキシを使う。デフォルトのポート番号は
1080。(形式: <proxyhost[:port]>)
- proxy-user - プロキシ認証に使うユーザ名とパスワードを
指定する。(形式: <user:password>)
- bug - 指定したディレクトリにバグレポートを出力
- env - 特定の環境を使う
(バグレポートなどのため)
- verify-rpm - インストールする前にRPMの署名を確認する
(=デフォルト。[--no-verify-rpm]で無効)
- test - 正しくインストールされるかどうかテストする
- excludepath - 除外するパスを指定(カンマで区切る)

- excludedocs - docファイルを除く
- skip - インストールをスキップするパッケージ
- more-choices - 複数のパッケージがある場合に、デフォルト以外の選択肢を表示する
- norebuild - 読み込み不可ならhdlistをリビルドしない
- strict-arch - 同じアーキテクチャのパッケージのみを更新
- a - 指定した表現を含むすべてのパッケージを選択する
- p - provide(提供)タグも検索対象に含める
- P - provide(提供)タグは検索の対象にしない
- y - ファジー検索(--fuzzyと同じ)
- s - ソースパッケージを指定(--srcと同じ)
- q - 詳細を表示しない
- v - 詳細モード。

urpme 詳細オプション

使い方:

- help - このヘルプを表示
- auto - 複数の選択肢から自動的にパッケージを選択
- test - 問題なく削除できるかどうかテストする
- force - 足りないパッケージがあっても強制的に実行する
- parallel - urpmeをエイリアスの複数のマシンに使う
- root - RPMの削除に他のルートを使う
- use-distrib - ディストリビューションのツリーからurpmeをオンザフライで設定。chrootを '--root' オプション付きで(アン)インストールする際に使用。
- v - 詳細モード。
- a - 指定した表現を含むすべてのパッケージを選択

urpmq 詳細オプション

使い方:

- help - このヘルプを表示
- update - 更新メディアのみを使う
- media - 指定したメディアのみを使う(コンマで区切る)
- searchmedia - 指定したメディアのみを要求した(または更新された)パッケージの検索に使う
- excludemedia - 指定したメディアは使わない(コンマで区切る)
- sortmedia - カンマ区切りで指定したメディアごとにソートする
- synthesis - urpmeデータベースの代わりに指定したsynthesisを使う
- auto-select - 自動的にパッケージを選択してシステムを更新
- fuzzy - ファジー検索(-yと同じ)
- keep - 既存のパッケージを維持し、削除要求は拒否する
- list - 利用できるパッケージを表示
- list-media - 利用できるメディアを表示
- list-url - 利用できるメディアとURLを表示
- list-nodes - [--parallel]に利用できるノードを表示
- list-aliases - 利用できるパラレルエイリアスを表示
- dump-config - メディアの設定をurpme.addmediaの引数の形式で表示
- src - ソースパッケージを指定(-sと同じ)
- headers - 指定したパッケージのヘッダをurpmeデータベースから標準出力する(rootのみ)
- sources - ダウンロードする前にすべてのソースパッケージを表示(rootのみ)
- force - 足りないパッケージがあっても強制的に実行する

--parallel	- urpmiをエイリアスの複数のマシンに使う
--use-distrib	- ディストリビューションのツリーからurpmiをオンザフライで設定。ディストリビューションの検索を可能にする。
--wget	- リモートファイルの取得にwgetを使う
--curl	- リモートファイルの取得にcurlを使う
--proxy	- 指定したHTTPプロキシを使う。デフォルトのポート番号は1080。(形式: <proxyhost[:port]>)
--proxy-user	- プロキシ認証に使うユーザ名とパスワードを指定する。(形式: <user:password>)
--env	- 特定の環境を使う (バグレポートなどのため)
--changelog	- チェンジログを表示
-a	- 指定した表現を含むすべてのパッケージを選択する
-c	- 削除されるパッケージを表示
-d	- 依存するパッケージも検索して表示
-f	- 名前, バージョン, リリース番号, アーキテクチャを表示
-g	- グループと名前を表示
-i	- 読みやすい形で情報を表示
-l	- パッケージに含まれるファイルを表示
-P	- provideタグを検索しない(デフォルト)
-p	- パッケージを探すためにprovideタグを検索
-r	- 名前, バージョン, リリース番号を表示
-R	- 指定したパッケージに依存するパッケージを検索
-s	- ソースパッケージを指定(--srcと同じ)
-u	- 新しい版がインストールされているときはパッケージを削除
-v	- 詳細モード。
-y	- ファジー検索(--fuzzyと同じ)
-Y	- 大文字/小文字を区別しない[-y](ファジー検索)

- 指定したパッケージ名/RPMファイルがあるか調べます。

パッケージ追加時に、インストールCDを毎回参照しないようにしたい。

デフォルトでは、追加したいパッケージがインストールCDに含まれる場合、インストールCD (1-3) の利用を優先します。すべての作業をネットワーク経由で行いたいときには、次のコマンドを実行してください。

```
# urpmi.removemedias cdrom1 cdrom2 cdrom3
メディア Installation CD1 (cdrom1) を削除
メディア Installation CD2 (cdrom2) を削除
メディア Installation CD3 (cdrom3) を削除
...設定ファイル[/etc/urpmi/urpmi.cfg]を作成
```

サードパーティのRPMパッケージは利用できますか。

有名なサードパーティが配布しているRPMパッケージの多くがRed Hat, Fedora Linux用に最適化されています。そのため、Mandrakelinuxにインストールしても、確実に動作するとは限りません。source RPMからrebuildの方が動作する可能性が高いといえます。

ただし一例として、ATrpmsからは特定のディストリビューションに依存しないとされるパッケージ(distribution independent packages)も配布されています。もし関心があるのなら、<http://atrpms.net/dist/common/>を見てください。また、以下のサイトからもMandrakelinux用のRPMパッケージが多数配布されています。

- [Rpmfind.Net Server](#)からは、[Mandrakelinux用RPM](#)のページを見てください。
- [RPM PBone Net](#)からも、バージョン別に検索できます。

2ch ブラウザー「おちゅ～しゃ」のインストールができません。

[おちゅ～しゃの公式サイト](#) で公開されている RPM バイナリーは Fedora Core 用なので、そのままインストールすることは無理です。<http://ecololi.plala.jp/linux/mandrake/> というサイトより Mandriva 用バイナリーRPMが公開されています。これをダウンロードし、次のコマンドでインストールすれば簡単です。

```
# urpmi ochusha-0.5.7.2-1mdk101.i586.rpm
```

- 外部リンクを開くことが可能とするには、おちゅ～しゃの [ツール] > [オプション] > [外部ウェブブラウザ] の設定を変更する必要があります。GNOME 環境では、

```
(変更前) mozilla -raise -remote "openURL(%s,new-window)"
```

```
(変更後) mozilla-firefox %s
```

KDE 環境では、代わりに konqueror %s と指定すれば対処できます。

- 公式なソースパッケージからインストールするには、rpmbuild コマンドを使って、RPM パッケージに変換してからインストールします。(tarball に RPM の spec ファイルが入っています。)

```
rpmbuild -ta ochusha-0.5.8.1.tar.bz2
```

メタパッケージ (Task-Oriented パッケージ) の利用について (2006 Official)

2006 Official には、Conectiva より導入された下記メタパッケージが利用できます。関連パッケージ一式を一括してインストールするためのものです。

```
# task-c-devel          C      開発環境
# task-cplusplus-devel C++   開発環境
# task-gnome            GNOME 環境
# task-kde              KDE   環境
# task-kde-devel       KDE   開発環境
```

一連のコマンドでどのようなパッケージがインストールされるのか知りたいときは、次のコマンドで確認できます。

```
$ urpmq -d task-パッケージ名
```